

本籍  
住居

供述調書

金沢市東カニ丁目六番地  
同右 年俸一十室

職業

トラック運転手

電話九二局五九三番

氏名

廣野 秀樹

昭和三十一年一月二九日生（三七歳）

右の者に対する

四月十八日

偽冒・強姦  
金沢市東カニ丁目六番地

被疑事件につき、平成四年

において、本職は、あらかじめ

被疑者に対し自己の意思に反して供述をする必要がない旨を告げて取り調べたところ、任意

次のとおり供述した。

石川県警察用紙

只今判事さんから

自己の意図は及ばしつ

決迷するに必要がはい

し同じ。その判事もく分りました。

私に。今年四月一日に同じ職場

で御いさいます

安藤文さん

二歳

い対し。改る跡を暴力を加え、

その後、暴行を繰り返すなど、

今程、金沢市警察署長室に

三

保管されている

私所有の軽四

スズキマルトワース

石川四〇ね九五四四号

と確認して来まして。

この車は、今回の事件を犯した

の者。

今程、この車の中を確認すると

助手席に

カセットテープケースの三角形の

破片

一片

助手席前の小物等を置くと、

カセットテープの割れ目から一個

石川県警察 月氏

助手席の足ミットの二に  
彼女の短靴一足  
助手席と運転席の間に  
多分彼女の腕時計  
と聞いてあり腕時計一個  
運転席の後ろの後部座席の足を置く  
ところ

ジョーシアーキーの

空缶一個

かき 今程注意提示しました。

軽四貨物自動車

石川四〇ねかろ四四号一台

軽四の自動車検査証一冊

四

問

この時本報は平成四年四月一日当署司法警察員三直川原照夫差押えに係り  
 自動車検査証一通、エンジン一本を呈す。

答

この自動車検査証、エンジン一本。  
 私が今程確知して来たり。  
 私折角の軽四

石川四〇ね九九四四号

石川県警察月氏

五、

石川 貞 警 察 月 報

のものに間違ひありません。

先日の金金や金箱の金金の際  
このエンジンカーで刑事さんか車内  
を確知する為、トランプで外にレイン  
しに水やの形にも見覚えがあり  
ます。

先日この車、車内を確知する為  
金金にして、即ち金金  
上

三角形の破片

かあを、見る、刑事さん

この破片は、即ち金金の小物等

を置くところ、置くところ

カマッテ、つ、ケースの破片

で、彼女を脅す為、

四月一日夜大野地内で

小物等を置く助手席前（のとうろ）

からカセットテープケースを手に

取り、両手で割った

三角形の破片

を彼女の左頬につけて

脅した

のズリと説明しています。

周

このカセットテープケースも三角形の

破片を見下す。

この時、平成四年四月八日当署

司法警察員より、査川原照夫鑑問に係る

山口県警本部 氏

カセットテープケース一個及びカセットテープ2本の  
破片を提示しな。

このカセットテープケースは三角形の破片  
に、今程私に疑わしき点がある。今程私に注意提  
示があるのを確認し、今程私に注意提  
示しな。今、遠く、  
このケースを割って三角形の破片  
をつくり、破片をつまみ

安藤文さん

を背にした。ズリ。

四月一日破片が脱出計を

し、こいひかどらか矢付まゝでしな。

靴にひいて、四月一日破片がどら



内 司 股 簿

ものを履かせるか買えさせ。

この脱時計と短靴を足下さ。

この時本靴は平成四年四月一日当番

司法警察員と並川京昭大領置い様子

脱時計一個短靴一足を提示した。

この脱時計と短靴は、今程靴の車

右側四のわなを四回着いたあつたを解

しこい。

彼女が脱時計をしろいさくらを

あき見せ買えかひのく彼女へ

をかどうか方やりませくが、自分への

はい、多分彼女のそばに置いてい

す。

四月一日、娘女つまり、安藤文さんには  
バックを掛、ふいふ、そのバックの中  
にその娘、同言を、そのふいふかき  
し、おまて。  
短靴、いつて、前、にその様、お靴を  
履いて、いま、し、の、娘、そのものに  
間違、い、い、は、ず、で、。  
この靴、は、け、き、し、に、前、え、お、い、の、  
う、が、大野、地、内、で、娘、女、を、足、蹴、り  
し、た、娘、娘、女、を、助、手、帯、に、寝、か、せ、ま  
前、に、

片、方、車、の、外、に、お、ま、い、の、を  
助、手、帯、の、足、コ、ット、の、中、に、

7.

ノホヒ道之ホアヲ  
R.

彼女が外へ出ていってしまった。

腹  
グ  
ハ  
の  
カ  
ミ  
シ  
キ  
ミ  
シ  
。

旅  
 各  
 の  
 時  
 へ  
 へ  
 靴  
 を  
 脱  
 か  
 せ  
 ば  
 様  
 子

賞之  
田  
大野  
地  
用

改考 臨時 停課 延期 休校

U  
o  
π  
v  
✓  
φ  
3  
4  
5  
6

3  
1  
3  
1  
1  
1  
空  
空  
R  
R

一、平、破、女、子、強、姦、後

金石のナトリウムを空気で

事と致し、  
利の手前の三差踏

交差点 3- 内 卸 取 走 找 2- 圆 心

永力便人心登余世之因心子

[illegible]

私に、飲んでジョースの空気を吸い  
 指2本とりしもの。強後  
 車を走らせながらジョースを飲んで  
 ぐ。その後、後部席の足を置くところ  
 に置く。その時  
 に飲んでジョースの空気を吸って

ハ、

覚えがきまて。

そのかゝる私が四月一日着用に  
して

上着のジーンズ

靴のサジマルシューズ

四月一日

茶色ズボン

茶色長袖Tシャツ

白をくつして

パンツは

四月三日に注意提し、

上着のジーンズとサジマルシューズ

四月一日買ひ、

三井物産株式会社

四月一日、警察に提出し、  
見るに上着、靴、血液様のもが  
付着してゐる。

私の方へ出血してゐる。  
被女の血が付いたものを同いす。

四月三日、ボニ等と提出して、  
それが、提出すると着衣をさす。

まかひく、その日、父が着衣をえを差して、  
し、つくねたの、提出して、ひの、

この茶色ズボン、白くつしひに、  
血液様のもが付着してゐる。

四月一日、会社に提出した後、

加三子

加三子

靴流用 マスターズ

カゴアルシューズ

を買い、年前二回、

自分のアパートに送り、

洗濯後一度もはくことなし

ズボン

をいふ。アパートから二分の

サウナサバリオ

に直ぐに行き、風呂に入り

洗濯後一度もはくことなし

パンツと靴

をけき、ティンヤツを脱ぐ。

今迄着用过しにパンツ、ティンヤツ、

パートの☆置のR.

將之入書

明本館付石炭術人以平成四年四月一日  
 三日當署司張警察員迄直橋本登て  
 廣置に係る上着制執・テイリヤツ・ズボ  
 を呈示しひ。

只今國士之賞之也

ジョーズの 養育 カギ アルシ ズ

私に月百枚送るに  
→ R

ティエツ・ズボシ  
靴下  
四月三日  
此後



提出しはものづ。

上着やカシミアは新品のもの  
でずし。ズボンも軟下は洗濯後一度

もはいし。おはいもの。で。

付着し。さいは血染めのもの。

四月一日私が改（り）読（り）した。

おそ。彼女が常（き）から出（で）てい

の。か。付（く）いた。用（よう）意（い）あり。

最初（はじめ）の取（と）扱（は）り。

四月一日午前。映画館の方のパート

に。戻（もど）った。い。ま。は。そ。の。後（あと）。

考え（かんが）えて。ま。と。午前。一。時（じ）頃（ころ）。

の。で。訂（てい）正（せい）し。て。お。ま。す。

四月一日夜、刑事さんと案内して  
彼女を殴り、蹴りし。

大野地内

に行きまじ。

その現場、ミラーのルームミラーが  
落ちていた。刑事さんで、

このルームミラーは私の車のもの。で、  
現場はミラーと車に上げ

て、さう。

このルームミラーが落ちていた場所

は、私の車と止める

彼女を平手打ち、殴り

足蹴りし。

の現場です。

何故ルームミラーが落ちたか、

後で考えろと。彼女が助手席トP

を降りて外に逃げたそうとする

の。私は運転席から助手席

をよぐ様いして外に逃げた時

私の身体がルームミラーに当たり

外に落ちたと聞いたので。

本来速に取付けであるルームミラー

も壊れて助手席の足でマストのミラー

に落ちていたのづく相当な力です。

私の身体が当たり、本来取付けで

あるルームミラーとそのルームミラーの上

ルールを固く下さい。

司理監査  
 係子ルムミラー  
 一箇を提示し以。

くあつたものづく

三年程 多分

金沢市へ江戸

オートバックス

く買っはもの。それ以後、自分の

軽四に乗り付けたいんが。す。

このルームミラーを登見した時

そばに同月ライターが落ちた

いましにか

自分のものかどうか

分かりまして。

前の取調の集、四月一日、

下着とズボンを揃、でサウササパリオ

二二〇一 長崎 家 月氏

へ行くと六いまして、後でよく  
考えるとズボンのパートで、い  
いので訂正しておきます。

廣野秀樹



右の通り

録取して鏡や肉をせしめ、  
無事を申し立て署名捺印しし。

前同日

石川貞・金沢西警察署

司法警察署

警部 鄒翔、右内 孝子

